



実習生の通学路脇で春の訪れを告げる水仙の花。

企画・編集 澁谷 健司・栗又 由利子

3月に入りました。研修センター周辺も少しずつ春の訪れが感じられるようになってきています。一方で今年はいわゆる「寒の戻り」が例年より厳しく感じられます。東南アジアからの実習生の皆さんには、これまでに体験したことのないような激しい寒暖差は、想像以上に体に負担をかけていると言われていました。

実際に体調不良を感じながらも授業に出席して、発熱に至るケースも出ています。来日したばかりで気が張っており、「これくらいはだいじょうぶ」と我慢してしまいがちな実習生も多いので、季節の変わり目の体調管理に加えて、体調不安を感じたら、まずは管理者に相談することの大切さも呼び掛けているところです。

あじけんスコープ Vol.152 ～多文化共生についての市民講座のお手伝い～

先日、栃木県小山市国際政策課主催の「多文化共生×日本語教育」という一般市民向け講座が開催され、当校のインドネシア人実習生の皆さんが地域に住む日本語学習者として参加しました。講座では日本人受講者の協力を得て「日本で行ってみたいところ。やってみたいこと」をテーマに作文を書き、発表もしてきました。始めは緊張した面持ちで、とても心配そうでしたが、受講者の皆さんの優しい声かけで、緊張もほぐれ、無事作文を完成させ、立派に発表する事が出来ました。参加した方々からは、「実習生の日本語力にびっくりした。短時間でここまで話せるのは尊敬する」「目的や、目標がしっかりしていて立派だなと思った」などの感想を頂きました。

今後もこのような活動を通して、地域住民と実習生の交流を促すとともに、「多文化共生」への理解を深める活動にも、積極的に関わっていきたいと思います。



受講者の協力を得て作った作文を発表する皆さん

今月の実習生



今月はパプア民族のインドネシア人実習生 SEMUEL YOGI (ヨギ) さんを紹介します。ヨギさんは来日当初からそのがっしりとした体格や肌の色が、これまでのインドネシア人(主にジャワ人やバリ人)とは明らかに異なっていました。

そこで話を聞いてみると「私はインドネシアから来ました。でもパプア人です」とのこと。そこで、日本の皆さんにパプアのことを是非紹介して欲しいとお願いすると、喜んで取材に応じてくれました。

とても真面目で、日本語も上手なヨギさん。今後の日本で活躍が楽しみな実習生です。

私はインドネシアのパプア出身です。
このシャツに絵が描かれている鳥はパプアを象徴する極楽鳥です。
極楽鳥は美しさや誇り、そして希望を表しています。
私は日本で実習しながらパプアの文化と誇りを世界に伝えたいと思っています。
そして日本で学んだことを将来、パプアに持帰り役に立てたいです。

あじけん流日本語授業

～日本語の学習を振り返る授業②～

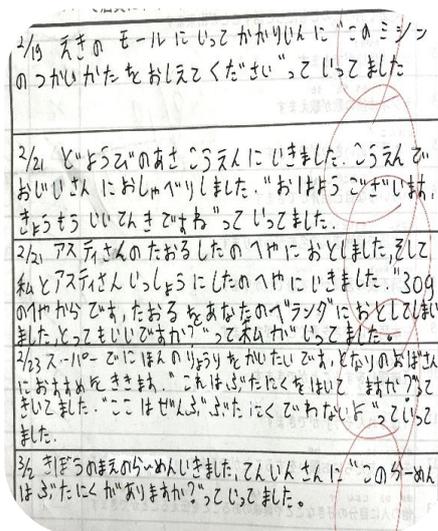
今月のあじけん流日本語授業は、自律学習を育成するための授業の紹介第2弾です。当校では、自律学習を促すため、自分の日本語力を振り返り、これからの学習目標をしっかりと設定できるよう指導しています。「今後特定技能での在留資格を目指したい」「日本語力を今より向上させたい」と考えている実習生は多いので、これから自分の日本語力をどう伸ばしていくかが課題となっています。そこで、当校では、配属後も自主的に学習ができる実習生になるべく、自己の学習を振り返られる力を育成する授業を行っています。

先月号では、自分の日本語力を客観的に振り返ることができる「自己評価力」の育成についての授業についてご紹介しました。今回は、生活の中で、自分がどんな日本語を使ってだれとやり取りをしたのかを、自分で書き留め、発表するという授業の紹介です。「実際に日本語を使った」ということを客観的にみることで、自分に自信を持ってもらうことを目的にしています。自分が日本語を使ったということを振り返ることで、「自分の日本語が通じた」という実感を得ることができ、これからのモチベーションにもつながります。また、自分が発した言葉を一度書き留めるといふ行為をすることで、客観的に眺めることが出来、自分自身の日本語を見直すことができます。例えば、「スーパーで店員さんにしょうゆはどこか聞いた」という具体的な経験を記録

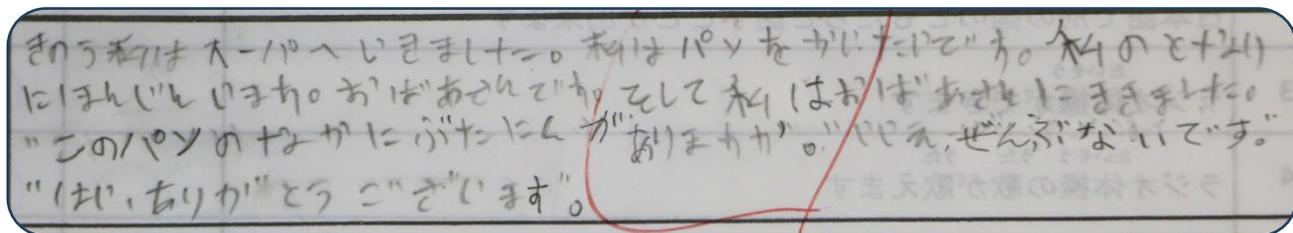
すると、後で読み返したときに「もっとこういう言い方があったかもしれない」などといった「気づき」が生まれます。このように、自分の日本語を観察するプロセスを繰り返すことで、単なる記録ではなく、次に向けたコミュニケーションのためのトレーニングとなり、自分の学びを自分で導くための重要な土台となります。

実際に、実習生はいろいろな場面で、日本語をつかっているようです(写真①②③)。自分のチャレンジしたことをクラスで発表したり、他の実習生のチャレンジを聞いたりすることもまた、実習生にとっては励みや学びになっています。

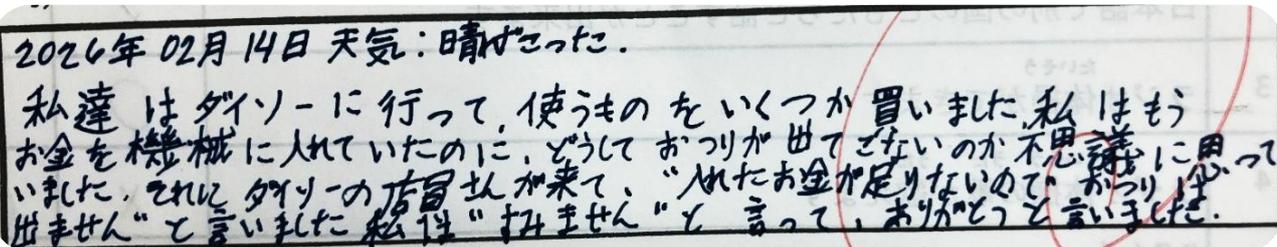
これからも実習生が楽しく、また、実習生自ら学ぶ姿勢を育成出来るよう、研究を重ねていきたいと思っております。



写真①：たくさんのチャレンジを書িয়েくれました



写真②：スーパーなどで知らない日本人に話しかけ、自らの力で問題を解決しているようです。



写真③：自分が間違ってしまったことにも気づき、謝罪の言葉もしっかりと使っています